

PTA あきた

～未来を拓く子どもたちのために、今できること～



2026.3.1

No.154

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail:info@pta-akita.com
https://www.pta-akita.com

パフォーマー「GABEZ」から学ぶ
夢の授業



北秋田市立
清鷹小学校



令和7年度 ふれあい事業 報告



おおたひがしPTA
いきいき事業



1・2年生
「親子でフラワーアレンジメント」

大仙市立
太田東小学校



夢と希望を育む講演会



秋田市立
山王中学校



収穫感謝祭で
「東今泉八幡太鼓」さんと
一緒に演奏披露(太鼓クラブ)



第58回日本PTA東北ブロック研究大会 秋田大会

大会スローガン

子どもたちの志を育てよう!
ともに語り、ともに学び、ともに成長しよう
～愛してやまない子どもたちのために～

開催日:令和8年9月12日(土)～13日(日)
会場:あきた芸術劇場ミルハス、秋田市にぎわい交流館AU



シンボルマーク

令和8年度の
東北ブロック
研究大会は
秋田で開催します!!

*大会ホームページを
開設しました。
ぜひご覧ください。



URL <https://www.pta-akita.com/20260912-13/>

教育懇談会

令和8年1月28日(水)、秋田県教育委員会 安田浩幸教育長をはじめ、内田生涯学習課長のほか各課関係職員の方々からご出席いただき「令和7年度教育懇談会」を開催いたしました。質問事項に、各課より丁寧にご説明をいただき、とても有意義な情報交換の場になりました。その概要を報告します。

教職員不足の現状認識と対応及び社会人採用について

近年、教職員不足が深刻化していると感じています。特に、精神的な理由による休職・退職が増えているとの報告もあり、現場の負担の大きさが背景にあるのではないかと懸念しています。現在、県教育委員会として、教職員不足の実態（休職・退職理由、業務負担の状況等）をどのように把握し、どのような対策を講じているのかお聞かせください。

また、教職員不足への対応として、専門性を持つ社会人の採用が議論されていると伺っています。一方で、教員免許を持たない人材の採用については、指導力だけでなく、人格面や子ども・保護者対応への不安、採用後のサポート体制の重要性も指摘されています。社会人採用を進める場合、採用基準や研修体制、メンタルケア・カウンセリング等のフォロー体制はどのように整備されている、またはされる予定でしょうか。また、現場教員の負担増につながらないための配慮は検討されていますか。

〈回答〉

現在、県内の小・中学校及び義務教育学校における病休・休職の教員が高止まりしていることについては、県教育委員会としても把握しています。また、これらの病休・休職者に対する補充講師については、教員不足の折、1月1日現在で配置できていない学校が何校も見られることも事実です。特に、近年の大量採用による若年層の増加により、産育休取得者の増加も顕著になっており、中でも男性の育休取得者が増加傾向にあります。全県的に待機講師がほほいらないため、年度途中の欠員への対応が非常に困難な状況になっているのが正直なところです。

この教員不足への対応として考えられるのは、「教員採用」の在り方だと思えます。令和8年度採用として今年度実施した採用一次選考では、従来の秋田会場のほかに「東京会場」を設置し、首都圏の受験者の確保に取り組んだり、「大学3年生チャレンジ選考」を実施し、一定の基準に達した受験者は「選考通過者」として令和9年度採用試験において採用一次選考が免除になる制度を新設したりなど、教員確保に積極的に取り組んでいます。教員免許状の所有を前提としない「社会人等特別選考」も実施しており、義務教育課では「外国語活動・外国語（英語）」で採用している教員がいます。令和7年度には2名が採用され、令和8年度には1名の採用予定です。

また、東京のアキタコアベースを会場に「県庁職員・教職員合同採用相談会」を年2回開催したり、「ペーパーチャー説明会」と銘打って、教員免許は所有しているものの学校勤務経験のない者、勤務したことがあるもののブランクが長い者等を対象にした講師登録説明会を県内3会場で開催したりなど、教員不足を少しでも解消できるよう対応しています。

教職員の労働環境改善及び教職員の声を把握する仕組みについて

近年、教職員の長時間労働の常態化や、保護者対応を含む業務負担の増加、職場環境に起因する精神的負担等が、離職の要因となっているとの声も聞かれます。教職員が安心して働き続けられる環境づくりは、子どもたちの学びの質にも直結する重要な課題だと考えます。上記負担を軽減するため、教育委員会として現在取り組んでいる具体的な施策、今後検討している改善策があればお示しください。

また、現場の実情は、管理職を通した報告だけでは見えにくい部分もあると感じています。教職員自身が安心して声を上げられる機会が必要ではないでしょうか。教職員の勤務実態や現場ごとを把握するために、匿名アンケートや第三者相談窓口など、現場の声を直接吸い上げるシステムを構築してみるのはいかがでしょうか。保護者・PTAとしても、同じくPTA会員の教職員の勤務実態や置かれている状況を理解し、学校・行政と協力しながら、より良い教育環境づくりに関わっていくことが重要だと考えています。その一環として、PTAが主体となって教職員向けの匿名アンケート（業務負担や支援

ニーズ等）や、保護者向けの意識調査（学校への要望や配慮事項等）を実施し、教育委員会と情報共有し、今後の施策検討に生かしていく仕組みを検討することは可能でしょうか。あわせて、保護者が教職員の業務内容や勤務実態を理解するための説明資料の作成や研修会、オンライン配信等を、教育委員会とPTAが連携して実施することについても、ご見解をお聞かせください。

〈回答〉

県教育委員会では、教員が子どもたちと向き合う時間や、よりよい授業づくりのための時間を確保し、質の高い教育を実現するとともに、働きやすい魅力的な職場環境の整備とワーク・ライフ・バランスの充実により教員の抱い手を確保することを目指し、これまで数回にわたり計画を策定し各種対策に取り組んできました。これまでの取組により、教員の勤務時間の縮減や勤務環境の改善に一定の成果が見られるものの、未だ長時間勤務が多い状況が続いています。

国においては、令和7年6月に「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」（給特法）が一部改正され、令和11年度までに教育職員の1か月の時間外在校等時間を平均30時間程度に削減という目標に向け、学校における働き方改革が一層進められています。

また、令和7年9月に改正された文部科学大臣が定める指針では、教育職員の服務を監督する教育委員会が講ずべき具体的な措置として、新たに「学校と教師の業務の3分類」を踏まえた業務分担の見直しや適正化が図られ、保護者や地域住民等、共に学校教育を支える幅広い関係者の方々との連携の必要性が強調されたところです。

こうした状況を踏まえ、県教育委員会では「教職員の働き方改革推進計画」を見直し、今年3月の改訂に向けて準備を進めているところです。保護者や地域住民、関係機関等のご理解とご協力を得ながら、子どもたちの成長に真に必要な教育活動を更に充実させるため、学校における働き方改革に関する取組を着実に実施していきたいと考えています。

現在、義務教育課として取り組んでいる具体的な施策として、学校支援スタッフ配置事業における「学校サポーターの配置」があります。今年度は全県に115校114名を配置し、教員の負担軽減を図っています。来年度は更に配置人数の拡充を目指し、財政当局との予算折衝をしているところです。

また、教員の働き方改革を推進するに当たっては、関係諸団体との連携が必要不可欠であることから、「多忙化防止協議」を隔年で開催しています。特に、昨年度は「校務効率化に向けたICTの活用について」と「学校・教師が担う業務の適正化の一層の推進について」の2本柱で各市町村教育委員会のほか、県校長会、県PTA連合会、県教職員組合等の各団体との協議を行ったところです。

高校入試WEB出願システムについて

今年度から導入された高校入試のWEB出願システムについて、フリーズや写真アップロードの不具合、操作マニュアルの分かりにくさなど、保護者から多くの戸惑いの声が寄せられています。出願期間が2～3日と短く、システムトラブルが発生した場合の対応方法や救済措置が分かりにくく、不安や不公平感を抱いた保護者も少なくありませんでした。また、WEB出願に関する問い合わせや個別対応が学校ごとに異なり、結果として教職員の負担増や、学校間でのサポート体制の差につながったのではないかとの声もあります。

教育委員会として、今年度のWEB出願におけるトラブルや問い合わせ状況、トラブル発生時の救済措置や対応方針について、今年度はどのような運用だったのか、また今後見直しを検討している点、導入による学校現場・教職員への影響について、どのように把握・整理されているのか、現時点で共有可能な範囲でお聞かせください。

〈回答〉

令和8年度公立高等学校入学者選抜から導入いたしましたWEB出願につきましては、本番での出願が円滑に進むよう、昨年9月末か

ら10月末に、中学3年生を対象とした「テスト出願」を実施いたしました。事前に、中学校・高等学校双方の入試担当者向け説明会を開催し、操作手順の周知に努めてまいりましたが、初めての試みであり、またタイトなスケジュールであったことから、一部で操作への戸惑いや負担感が生じたものと認識しております。

テスト出願で判明した課題については、設計業者と協議の上、12月の本稼働までにシステムの改修及び改善を行いました。操作マニュアルも、より分かりやすい内容となるよう随時更新を行っております。サポート体制につきましては、設計業者による専用ヘルプデスクを設置し、保護者や教員からの問合せに専門スタッフが直接対応する体制を整えております。また、義務教育課とも連携し、各中学校において生徒や保護者の方々に丁寧な対応がなされるよう、情報共有やサポート体制の充実に努めております。

トラブル発生時の対応につきましては、万が一、システムに重大な不具合がおきた場合、その状況を速やかに精査し救済措置を講じることとしております。システム側に起因する問題によって志願者が不利益を被ることがないよう、公平な対応をしております。

教職員への影響については、導入初期における慣れない操作への対応が必要なため、一時的に負担感が増していることは重々承知しております。しかし、システム運用の定着が進むにつれ、情報の集計や確認作業がスムーズとなり、中長期的には入試事務の正確性向上と大幅な負担軽減につながるものと考えております。

今後も学校の声やヘルプデスクへの問合せ状況を詳細に分析し、次年度以降のさらなる操作性向上と、学校間でのサポート格差が生じないよう体制の充実に努めてまいります。

特色選抜制度の導入からの経過及び現在の状況について

導入から数年が経過した高校入試の特色選抜制度について、特にスポーツ推薦等を目指す生徒にとって、結果が一度で決まる「一発勝負」の制度となり、挑戦しにくい仕組みになっていないかとの声があります。教育委員会として、現在の特色選抜制度が生徒の挑戦機会や進路選択の幅にどのような影響を与えていると認識されているのか、これまでの運用状況や検証結果、今後の見直しの考え方があればお聞かせください。

〈回答〉

令和5年度入試から導入された現行制度は、中学校三年間の学習をしっかりと行った上で高等学校に進学してほしいという理念のもと、全ての受験生に五教科の学力検査を課すとともに、特色選抜と一般選抜の実施日をいずれも3月に設定しています。

特色選抜は、前期選抜の趣旨を継承し、中学校までの多様な活動や優れた資質を多角的に評価することを目的としております。各高等学校の求める生徒像に基づいた出願条件により、自らの実績や個性を活かしながら出願できる仕組みとなっており、同一校内であれば、特色選抜と一般選抜の併願が可能です。

昨年度の特色選抜の実施状況を見ますと、高倍率の学科では1.3倍を超えるなど、導入から3年を経て、生徒自身の得意分野や適性を踏まえた主体的な選択肢として定着しつつあるものと捉えております。

今年度、「スポーツ環境及び高校入試の在り方検証委員会」を設置し、開催しています。スポーツ等で実績のある中学生の県外進学が増加している現状を踏まえ、その要因分析と今後の対策について審議を行ってきました。その中で、現行制度は実質的に1回しかチャンスがなく、生徒及び保護者の心理的負担が大きくなっているのではないかという意見も複数挙げられました。検証委員会として高校生と保護者にアンケートを実施しましたが、自由記述の中には、特色選抜の時期を早め、進路を早く決められるようにしてほしい、学習に力を入れた人が受けられる推薦入試をしてほしい、特色選抜の制度がわかりにくいなどの意見が見られました。検証委員会は来年度も開催されますが、委員会の報告を踏まえながら、必要な見直しについては、詳細な制度設計を検討してまいります。その中で、スポーツや文化活動等に打ち込んできた生徒を適切に評価できているかについても、学校現場の声を丁寧に拾いあげながら進めていきたいと考えております。

今後も、生徒が自身の資質・能力を最大限に発揮し、前向きに挑戦できる入学選抜の実現に向けて、見直しと充実に努めていきたいと考えております。

生涯学習におけるPTAとの連携について

秋田県教育庁生涯学習課では、あきたスマートカレッジをはじめ、地域資源を生かした学習機会の提供や、生涯学習関係者の人材育成、学校・地域・家庭の連携促進など、多様な取組を進めておられます。

一方、PTAの立場からは、共働き家庭や若い世代の保護者を中心に、「学び」や「地域との関わり」に関心はあっても、従来型の参加形態では関わりにくい層が増えていること、また、子どもたちにとっても、学校外で地域や社会とつながる体験的な学びの重要性が高まっていると感じています。こうした状況を踏まえ、今後、県が推進する生涯学習施策とPTA活動をどのように接続し、保護者と子どもが「無理なく参加でき」「学びが実感できる」生涯学習の機会を、協働で創出・発展させていくことができるとお考えでしょうか。

また、その際に、県としてPTAに期待する役割や、PTAへの協力体制、具体的に連携可能な事業・仕組みの方向性があればお示ください。

〈回答〉

「生涯学習の施策とPTA活動との接続」は、これからの秋田の子どもたち、そして保護者のウェルビーイングを考える上で非常に重要な視点です。保護者と子どもの参加しやすさや負担軽減を考え、「学校やPTAが提供する場に、県の事業を利用する」というふうにしてはいかがでしょうか。

具体例を二つ提案します。一つ目は「PTA親子学習会に、あきた県庁出前講座のメニューを使う」ことです。あきた県庁出前講座は、生涯学習課が事務局となっており、県民の生涯学習の充実を図るために無料で実施しているものです。全部で206のメニューがあり、今年度上半期はPTAが18団体、小・中・特支34校が利用していただきました。ちなみに、人気講座ベスト3は「野生動物の生態と人身被害防止対策について」「インターネットの健全利用について」「歯と口腔の健康」となっています。PTAは身近な社会教育団体であり、生涯学習としての学びを提供する絶好の機会です。今後も、多様なメニューを用意して皆さんの学びに協力させていただきますので、ぜひ利用をご検討ください。

二つ目は、当該が所管する社会教育施設の利用です。例えば県立博物館の「わくわくたんけん室」において親子で楽しめる体験型展示を実施していたり、少年自然の家の「ファミリー向け事業」において家族ぐるみで参加できる体験活動を提供したりしています。保護者と子どもが共に学び合える機会として、身近な社会教育施設の利用もご検討いただけますと幸いです。

連携可能な事業・仕組みとしては「地域学校協働活動」があります。PTAの役割として期待されていることは、何といたっても学校と地域とをつなぐハブになることです。協議会で学校や地域のニーズを共有してPTAの立場から意見を述べたり、協議会で出た話題をPTA会員と共有し、PTAとして出来ることは何かを話し合ったりすることは、地域全体で子どもの成長を支えることにつながります。また、活動に参加することで地域への関心が高まり、卒業後も保護者や子どもが地域の一員として参加することも期待されます。生涯学習課の県庁出前講座のメニューには、「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールについて」もあり、今年度2校に利用していただいています。PTA活動の活性化にもつながるものと自負しております。こちらもご検討ください。

【県庁出前講座】



優良PTA文部科学大臣表彰 学校紹介

能代市立浄城西小学校PTA

PTAの核心たるや

能代市立浄城西小学校PTA会長 渡辺 雄亮

この度、私ども浄城西小学校PTAが、優良PTA文部科学大臣表彰を受けましたことに就きまして、大変嬉しく思いますと共に、これまで当校PTAを支えてくださいました歴代PTA会員の皆様、地域の皆様方に深く感謝を申し上げます。

当校PTAの主な活動としましては、専門部による各種学校事業への参画、学年部による親子レクの開催に加え、地域の夏のイベントである天空の不夜城への参加などが上げられ、6年生は自分たちの将来の夢を描いた田楽灯籠をそれぞれに制作し、頭上に担いでお祭りの行列に参加しており、能代の行事に触れる良い機会となっております。また、親子レクではコロナ禍における休止期間を乗り越え、今もなお先生達を交え全学年で開催しており、年に一度の「友達も親も先生も一緒になって遊べる特別な1日」を子供たちに楽しんでもらえていることが、私とししましては冥利に尽きるところでございます。

PTAの本質を重んじ行動する保護者の強い気持ちと、それに呼応し全力で臨んでくださる先生方によって作られる西小PTA。私はそれを誇りに思い、この良き思い出を大切にしたいと思っております。



由利本荘市立由利小学校PTA

変わる日常、私たちができること

由利本荘市立由利小学校PTA会長 菊地 勝



運動会でのPTA役員の関わり

この度、由利小学校PTAは令和7年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞できました。これは先生や地域の方々にご協力をいただきながら、先輩方が現在までその活動を紡いできた結果であり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

また、今回の受賞を大変誇らしく思うとともに次代に繋げていく責任の重さを再認識したところでもあります。

由利小学校では校内三行詩コンクールに特に力を入れて取り組んでおり、毎年その時期になると子供と一緒に作品を考えるのに悩んだり、入賞した作品を通して、家族や家庭のあり方について考えるいい機会になっています。この根付いた活動をマンネリ化させないよう新たな企画などを検討しながら取り組みを継続していければと考えております。

最後になりますが、コロナ禍の制限が緩和され、子供達の活動もようやく元通りになったと喜んでいたところに昨年のクマ騒動、子供達を取り巻く環境は刻々と変化しております。その中で私たちは何をしなければいいのか？子供達の為に一人一人が考え、より一層会員同志が連携し、活動を継続していけるよう取り組んでいきたいと思っております。



校内三行詩コンクール

映画「有り、触れた、未来」上映会

令和8年1月17日(土) 秋田市にぎわい交流館AUにて、映画「有り、触れた、未来」上映会を秋田県PTA連合会主催、秋田市PTA連合会主管で開催いたしました。

東日本大震災を背景にした物語で、命と向き合う姿や、人と人が支え合うことの大切さをテーマにした上映時間2時間を越えるとても見応えのある映画でした。

ご覧いただいた多くの方から、生きる命そのものの大切さについて実感されたのご感想をいただきました。

来年度も引き続き上映会など親子で楽しめる事業を企画したいと思いますのでぜひご参加ください。



今年度をもってPTA活動の区切り(閉校)となる学校があります。

メモリアルページ

- ①創立年月日
- ②児童・生徒数
- ③PTA会長名
- ④校歌



秋田市立 戸島小学校



①明治8年3月18日
②42名 ③関 裕 明

作詞 中川 正 男
作曲 小田島 樹 人

- 一 若杉の 若杉の
山は緑に 館の松
稲はこがねに 日は光る
われらは共に 手をつなぎ
学ぶ喜び 戸島 戸島
明るい学校
- 二 一すじの 一すじの
川はさやかに 映る雲
むねをせよ風 吹きすぎ
われらは共に 手をつなぎ
語る喜び 戸島 戸島
楽しい学校
- 三 太平の 太平の
山は紫 水の音
明日の望みに よびかける
われらは共に 手をつなぎ
励む喜び 戸島 戸島
伸びゆく学校



由利本荘市立 子吉小学校



①明治7年4月5日
②166名 ③工 藤 孝 輝

作詞 光 山 千 亮
作曲 田 口 洋

- 一 み空は晴れて 光は野辺に
気高い姿 鳥海山
愛と情に はぐくみ育つ
清く明るい 学び舎に
楽しい今日の 吾等がつとい
- 二 望みの朝に 手をとって
文化のいずみ くみとろう
平和に榮えて 沃野はみのも
清く明るい 学び舎に
楽しい今日の 吾等がつとい
- 三 ちとせの流れ 海原に
清いほこりの 子吉川
まだまのように たくましく
清く明るい 学び舎に
楽しい今日の 吾等がつとい



由利本荘市立 小友小学校



①明治7年3月19日
②107名 ③伊 藤 玲

作詞 小 松 善之助
作曲 須 藤 遠 音

- 一 大空はるか 鳥海の
けだかき姿 仰ぎつつ
日々に新たな 希望にもえて
まことの道を あゆもうよ
- 二 古き文にも 乙友と
かぐわしその名 つたえきて
いま父母の ねがいを胸に
さかゆく郷土 きずこうよ
- 三 龍馬をくだる 川風に
心とからだ きたえつつ
四季とりどりの 花さきせろう
学びのそのを つくろうよ



由利本荘市立 尾崎小学校



①平成3年4月1日
②494名 ③大 谷 美 里

作詞 大 友 康 二
作曲 小野崎 孝 輔

- 校歌「あしたのメッセージ」
- 一 さわやかな さわやかな
尾崎の 窓から
あしたの 風にのせて
未来へ ゆめを
しあわせの メッセージ
のぞみ豊かに ともに学ぼう
尾崎のみんなは
あかるく たくましく
 - 二 うつくしい うつくしい
尾崎の 空から
あしたの 歌にのせて
世界へ 愛を
ふれあいの メッセージ
こころ優しく ともに伸びよう
尾崎のみんなは
たのしく すこやかに



三種町立 琴丘中学校



①昭和37年4月1日
②62名 ③橋 本 光 博

作詞 竹 内 瑛二郎
作曲 下 総 統 一

- 一 豊かな稲田 広々つづき
朝風きよく 校舎におう
ああ われら ここに学び
希望にもえる ひどみ清らか
みがきあう 知と徳に
築きゆく あらたな歴史
輝くは われら琴丘中学校
- 二 はらかな男鹿の山美しく
夕日に胸も いろどりせまる
ああ われらここに育ち
平和の日本 になう力を
風雪に 耐え鍛え
はつらつと 正しく強く
伸びゆくは われら琴丘中学校



三種町立 山本中学校



①昭和50年4月1日
②90名 ③櫻 庭 梢

作詞 山 平 富代子
作曲 大 山 会三郎

- 一 石倉仰ぐ この丘に
学びの泉 汲みつつも
共に扶けて 正しく歩まん
若き力の 健児らが
集う 山本中学校
- 二 緑豊けき 関の台
学園の目標を めざしつつ
共に励みて 実力を高めん
熱き血潮の 健児らが
鍛う 山本中学校
- 三 希望に燃ゆる この丘に
礎かたく そびえたつ
共に究めて 明日を拓かん
高き理想の 健児らが
築立つ 山本中学校



三種町立 八竜中学校



①昭和50年4月1日
②91名 ③進 藤 一 弘

作詩 大 山 会三郎
作曲 竹 内 瑛二郎

- 一 奥羽の連峰 はるかに望み
天地はひらけ 緑にあふれ
日本の未来 になうこの肩
豊かさを 心にたたえ
風雪に耐えて 健やかに
明るくつよく 励むわれら
- 二 万里を寄せる 高なる潮の
奏でる歌に わきたつ希望
かがやくひとみ ここにつらねて
たゆみなく 真理をもとめ
みずからを鍛え ゆるぎなく
われらの力 つねに新た
ああ若い命の 衆はここに
八竜中学 われらの母校



湯沢市立 山田中学校



①昭和22年4月10日
②27名 ③井 上 智 弘

作詞 滑 川 道 夫
作曲 加 藤 直

- 一 光よ風よ 雄物川
川波清く ゆくところ
教えのことば 胸にしめ
正しくのびる 学びやは
われらの母校 山田校
- 二 光よ風よ 広い野よ
文化の花の 咲くところ
力を合わせ はげみあい
すなおに育つ 学びやは
われらの母校 山田校
- 三 光よ風よ 秋田富士
希望の雲の わくところ
はずむ心に かえりみて
愛と平和の 学びやは
われらの母校 山田校

郡市 PTA だより



かづの

「今年度の研修・活動報告」

夏の「単位PTA会長・副会長合同会議」では、鹿角市が目指す「ゼロカーボンシティ」に関する研修会を行い、二酸化炭素の実質排出量ゼロを目指した各種取組について理解を深めました。続けて開かれた懇親会でも、和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われ、有意義な研修となりました。

秋の「かづののPTA活動を考える会」では、セーファーインターネット協会・高橋大洋氏から「子供のスマホ・ゲームとの向き合い方」という演題で講演していただきました。参加者からは「大人も勉強し備える重要性を学んだ」「大変参考になった」等の感想が多く寄せられました。今後も会員相互の交流と学びを大切に活動を展開していきたいと思います。



大館・北秋田

「大館・北秋田PTA連合会研修会」

11月29日(土)北秋田市立鷹巣中学校体育館を会場に「大館・北秋田PTA連合会研修会」を開催しました。事務局の負担軽減と時間短縮、経費節減を図るために表彰の方法を変更する、会場の飾りを簡素にする等の工夫をして開催しました。



全体会では、これまでのPTA活動にご尽力された27個人、1団体の方々に表彰状が贈られました。

講演会は保護者の方々が発達障害について理解を深めることをねらいとして、秋田県発達障害者支援センター「ふきのとう田田」センター長の荒川祐介氏に「(発達)障害の理解」と題してご講演いただきました。



能代市山本郡

「歌とトークで会員を魅了」

11月22日に、三種町の松庵寺副住職で音楽家、カフェのオーナーでもある渡邊英心氏を講師に迎え、講演会を開催しました。「輝く今を、楽しもう!〜歌とお話〜」と題し、自らの生い立ちや修行中の経験談、音楽との出会いなどについての興味深いお話を、軽妙なトークとサンバやラテンのリズムに乗せて、オリジナルの楽曲を披露しながらご講演いただきました。

講演後には会員から「お焼香の際の作法の意味」が問われました。「額の中心にチャクラと呼ばれる第三の目があり、そこが私たちの世界とつながっているため、思いを込めて額にかざす。」ということも、新たな学びとなりました。ご協力いただいた各校会員の皆様に感謝申し上げます。



潟上市・南秋田郡

「活動内容の充実と精選」

1月27日に行った第2回役員会で、各校のPTA役員の出選方法や来年度開催する潟上南秋田郡PTA連合会研修会の内容等について情報交換を行いました。学校事情や地域性等で各校が抱えている問題や工夫について紹介し合い、意見を出し合い、活発な協議となりました。今年度は、昨年度の役員会で協議された、活動内容の充実と精選を並行して進めました。活動内容の充実に関しては、連合会で協力して取り組むことはできませんでしたが、各校がそれぞれの特徴を生かした取り組みがなされました。また精選については、本連合会の研修会を2年に1回の実施とすることで、今年度は研修会を行いませんでした。役員会については、昨年度同様に第1回役員会を書面開催という形で実施しました。また、事務局からの連絡や文章の発送もペーパーレス化に取り組みました。これからも本P連の持続可能な運営について多数の方々のご意見をいただきながら、進めていきたいと考えております。今後もよりよいPTA活動を目指しつつ、活動内容の充実と精選に取り組んでいきたいと思います。



男鹿市

「男鹿市PTA連合会親善レクリエーション大会」

11月16日(日)、若美総合体育館を会場に、男鹿市内各校PTAによるレクリエーション大会を開催しました。本大会は、スポーツを通じて学校間の交流を深め、会員相互の親睦を図ることを目的として企画・運営され、当日は、モルックやポッチャ、デッキスティックなどのニュースポーツ体験のほか、靴下玉入れなどのお楽しみ種目も行いました。接触やけがの心配が少ない競技を中心に構成したことで、親子で安心して参加でき、参加者はスポーツの秋にふさわしい心地よい汗を流しながら、和やかな雰囲気の中で交流を深めました。各校PTA役員の皆様のご協力により、大会は盛会のうちに終了しました。



秋田市

「市長と語る会長会議」

今年度の会長会議は、PTAにゆかりの深い沼谷市長をお迎えし、「市長と語る、子育て世代の現在と子どもたちの未来」と題し、開催いたしました。

市P連会長によるPTAの現状についての説明で始まり、座談会、グループワーク(情報交換)を行いました。

座談会では、PTA会長の経験者でもあり、現役のPTA会員でもある沼谷市長と、現PTA会長3名との対談です。PTAで印象に残っていること、子育ての悩み、PTAの役割など多岐にわたりお話を聞くことが、課題や展望を共有することができました。

そして、グループに分かれ情報交換することにより、各学校でのPTAの状況や悩みなどを話し合うことができました。

今後も秋田市PTA連合会では、各学校のPTAの悩み事に寄り添い、情報交換の場を持ちたいと考えています。



由利本荘市

〔由利本荘市PTA連合会開催の事業から〕

11月14日(金)、由利本荘市教育委員会より、秋山正毅教育長をはじめ、教育総務課長、学事課長、生涯学習課長を来賓としてお迎えし、教育懇談会を開催しました。秋山教育長からは、「これからの学校とPTA・地域との関わり」と題して、市における小中学校統廃合の経緯や子どもの数の減少の見通し、複式学級の出現とその影響について、ご自身が小学校3年生まで分校に在籍していた経験を交えながら、鋭く、そして熱意をもってお話いただきました。講演後には質疑応答の時間を設け、各地域の学校事情について共有することができ、たいへん貴重な機会となりました。

研究集会は、鳥海地区連合PTAを中心に、動画視聴型の講座として実施しました。自分の未来をつくるための「食」の重要性について、秋田大学教育文化学部准教授の瀬尾智子氏よりご講演をいただきました。

事業を通して、子どもたちの健全な成長のためには、「大人も学ぶ」ことの大切さを改めて実感しました。今後も工夫を重ねながら、取組を進めていきたいと思います。



にかほ市

〔にかほ市PTA連合会教育懇談会・研修会〕

11月14日、来賓に、にかほ市長、教育長、教育次長、教育総務課長、教育課長をお迎えし、教育懇談会・研修会を開催しました。

会前半は、市内7校からの要望に関する要望について、教育総務課長から丁寧な回答と説明をいただきました。

会後半では、株式会社秋田マテリアル防災士の齊藤亜希氏による「地域連携の防災を考える～はじめの一歩～」と題した防災に関する研修会を行いました。地域住民、保護者、教職員がグループを作り、災害時に学校の体育館が避難所となった場合を想定した運営の仕方を研修しました。「もしも」を自分事と捉え、備えることの大切さを改めて考えるきっかけとなる研修となりました。



大仙市

〔子どもたちの未来を共に育てるPTA活動〕

市や県を取り巻く状況としては、人口減少、少子高齢化などともない課題は様々ありますが、PTA活動を通して地域の大人が一致団結し、子どもたちの健全な成長のために力を尽くしていこうと気持ちを新たにすることができました。また今年度も昨年度に続き、大仙市PTA連合会総会の後に懇親会を開催し、さまざまな垣根を越えてたくさんの方々と親睦を深め、これまでPTA活動に尽力されてきた先輩方のお話に大いに励まされ勇気をいただきました。市内小中学校、園の代表者が一堂に会しての研修会も継続し、今年は2月6日に35回目の研修会を開催する予定です。ちょっとだけユニークな「くじけない心」の育み方と題して大仙市在住の公認心理師から講話をいただき、子育てについて理解を深め、それぞれの立場で、またPTA組織として、どのように協力して子どもたちを健やかに育てていくのかを考える機会になればと思っています。今後も、地域の大人が力を合わせて、子どもたちの明るい未来を共に育てる活動を続けていきたいと考えています。



仙北市

〔映画「夢みる小学校」上映会〕

今年度の研修会は、役員会でいくつかの候補を挙げ、話し合った結果、文部科学省選定の「夢みる小学校 完結編」を上映し、特色ある教育活動について学ぶ機会とすることとしました。

舞台となる小学校では、設定されたプロジェクトの中で、何をしたいのかを子どもたち同士で話し合い、学ぶ内容が決まっていきました。時間割に、国語や算数などの教科名がない教育活動を進めていました。

感想の中には、「考える力が根本的に育つ教育の在り方に驚いた」「『ありのままの自分でいい』と分かった瞬間、いじめがなくなることに共感した」など、自身の子育てや教育の進め方を振り返る記述がありました。「学ぶこと」を深く考える時間になりました。



美郷町

〔親力アップ講演会〕

今年度の親力アップ講演会では、仙台育英高校野球部監督・須江航氏を講師にお迎えし、子どもを育てる言葉の在り方について研修を行いました。須江氏は、成功よりも失敗から学ぶ姿勢を重視され、子どもが自ら考え挑戦する経験こそ成長に資するとのご見解を示されました。さらに、相手の心情に配慮し、まず「傾聴する姿勢」が「言葉を真に届ける基盤となる」とのお話がありました。本講演を通し、相互尊重に基づく成長環境の重要性と、家庭と学校が協働して支える意義を改めて認識する機会となりました。今後もPTAとして親力アップに努めてまいります。



横手市

〔「たくましく すこやかに 心と体」をめざして〕

研究集会を8月2日(土)午後、浅舞地区交流センターを会場に開催しました。今回は、横手市こども・若者相談窓口 Yotte・Cotto カウンセラーの江村慎平氏をお招きしての「横手市の不登校の現状と親としての関わり方」と題した講話と、参加者が8グループに分かれ、「ここがへんだよPTA・やってよかったPTA・なにができる? PTA」を考える協議との2部構成で行いました。講話では、江村先生から現状説明と関わり方の一つとして「〇〇はしない」という回避目標は避け、「〇〇をする」という接近目標にする等具体的なアドバイスをして頂きました。全国的に増加傾向にある不登校、そして「いつ我が家に起きても不思議ではない」という静かな危機感からか、大変熱心に聞き入る様子が見られました。グループ協議では小中学校各校のPTA活動の現状や課題、そして可能性について情報交換を行いました。それぞれの学校の工夫した活動が共有され、大変有意義なものとなりました。



湯沢雄勝

〔秋田県PTA研究大会 楽しむ力を育てる〕

11月8日、「楽しむ力を育てる～ひとり一人の幸せのカタチ～」をテーマに、第51回秋田県PTA研究大会湯沢雄勝大会を開催しました。ステージでは、湯沢南中学校郷土芸能クラブ「南中太鼓」、羽後中学校他「西馬音内盆踊り」、皆瀬カントリークラブ「板戸番楽」からスタートし、シンガーソングライター柴田トオル氏による講演「ほくが自分らしく生きられる理由」を素敵な歌とともに聞いていただきました。また、新しい取組として、「湯沢まなく風作り」「味噌玉作り」などの体験コーナーや、中学校の総合的な学習の時間での取組による商品販売コーナーを設けました。

「楽しむ力」とは、物事を前向きに捉え、自らの関心や好奇心を原動力として行動できる力であり、困難に直面したときにも自分なりの視点で希望を見だし前進できる力でもあります。本大会が子どもたちの未来に何が必要かを考える機会になり、保護者や教職員、地域の方々一人ひとりが「楽しむ力」を支える存在として、自分のできることから一歩を踏み出すきっかけとなりましたら幸いです。



PTA安全互助事業からのお知らせ

現在ご加入の「**児童・生徒・PTA総合補償制度**」は学校管理下外のケガや登下校中のケガ、PTA行事でのケガ、賠償事故の補償をしています。令和8年度の補償内容・加入要項を3月に各学校へお送りいたします。

さらに令和8年度から現在ご加入の補償制度に追加型の**あきた子ども24時間総合補償制度**が始まります！

- 各ご家庭の**任意加入制度**です！
- ケガや病気などお子さまの日常生活の様々なリスクを**24時間カバー**！部活動や部活動の地域移行、塾や習い事、学校の休みも含めて24時間補償！（学校管理下も補償されます。1日からでも補償されます。）
- 学校貸与の学習端末（タブレット端末）の**破損、紛失**等にも対応！
- いじめや**SNSトラブル**などの**トラブル被害対応費用**を補償！



※本制度はAIG損害保険株式会社へ運営を委託いたします。
※あきた子ども総合補償制度のご案内は4月にお送りいたします。

新年度のご加入よろしくお願いたします。

令和8年度 PTA研究大会の お知らせ

第74回日本PTA全国研究大会
奈良大会

大会スローガン

建国の地 大和からの発信
コンヴィヴィアリティな「わ」
～挑戦するなら今しかない～

開催日：令和8年8月21日（金）～22日（土）
会場：天理大学杣之内第一体育館 ほか



令和8年度「みんなで育てる 秋田ふれあい事業」の募集について

令和8年度もPTA行事やPTA内の活動グループが主催する子どもを含めた事業に、予算内で上限5万円の助成を行います。応募要項は、秋田県PTA連合会ホームページのお知らせをご覧ください。



秋田県PTA連合会補償制度取扱会社



AIG 損保

AIG損害保険株式会社 北海道・東北地域事業本部 秋田支店

〒010-0001 秋田市中通2-3-8 秋田アトリオンビル10F

TEL: 018-801-2010 FAX: 018-801-2022 午前9時～午後5時（土・日・祝日・年末年始を除く）